

【Blue Marble 2】

【BLUE MARBLE 2】 Lesson1 現代に求められるリーダーシップ

Part1

「リーダー」にはどのような資質があると思いますか。

他の人に指示を与える、強くて自信に満ちた人をあなたは想像するかもしれません。

しかし、そのような一方通行のリーダーシップはあまり一般的ではなくなりました。

最近ではインターネットのおかげで、簡単に自分の意見を言うことができます。

これにより、さらに協力的な意思決定が可能になりました。

現代のリーダーは、協力的なチームを構築するために「ソフトスキル」を使います。

これらの(ソフト)スキルは、すべてのメンバーに力を与え、コミュニケーションを改善し、チームワークを強化することに焦点を当てます。

成功する 21 世紀のリーダーは、メンバーすべての意見を尊重することで人々をまとめます。

彼らはコントロール（管理・支配）ではなく、コラボレーション（協力）を通して導いていきます。今日、世界は信じられない速さで変化しています。

進行中のグローバルな課題に取り組むためには、リーダーシップの重要性について学ぶことが役立ちます。

リーダーシップのスキルを磨くことで、コミュニティ、学校生活、そしてあなた自身を向上させることができます。

※ソフトスキル＝人間関係の協調性や柔軟性など

※ハードスキル＝資格や専門技術、専門知識など

Part2

優れたリーダーは、共通の目標に向かって協力するように、他の人に動機（やる気）を与えることができます。

彼ら（リーダー）には自分の意見を主張するのに十分な自信が必要です。

と同時に、時には一歩下がって他の人にリードしてもらうことも必要です。

そのような指導者の良い例がネルソン・マンデラです。

南アフリカにはアパルトヘイトがあって、有色人種を無慈悲に差別していました。

マンデラはその制度に対する抵抗を主導し、27 年間投獄されました。

彼は一方で重要な決定を下す責任を負いながら、もう一方では他人の話を聞いて信頼するという、優秀なソフトスキルを持っていました。

彼の追従者たちの意見が自分の意見と異なる場合でも、時に彼はそれを受け入れました。

マンデラは自由への夢を決して諦めることなく信じ続け、1990 年代初頭、ついにアパルトヘイトは終焉を迎えました。

マンデラは、現代で最も成功した指導者の一人でした。

彼は、ソフトスキルが人々をまとめることを理解していました。

【Blue Marble 2】

Part3

人間関係に時間とエネルギーを投資することは、より強力なチームを構築するのに役立ちます。

さまざまな分野の人と知り合うことで、あなたはソフトスキルを磨くことができます。

優れたネットワーキングスキルを持つ指導者の平尾誠二さんの例を見てみましょう。

平尾は日本ラグビー界のレジェンドであり、チームのキャプテンそしてヘッドコーチとして大きな成功を収めました。

彼はそのキャリアを通じて、スポーツ、科学、エンタメ界など、さまざまな分野の人々と交流しました。

「ラグビー以外のネットワークは私に新たな視点を与えてくれ、それが私の指導力を向上させてくれた」と彼は説明しました。

彼は自分のチームをより客観的に見て改善することができました。

彼がチームの調和を作り出すことに成功したのは、他分野の人々との交流に大きく影響された結果でした。

現代社会では、賢明なリーダーは多くのさまざまな種類の人々から、重要な教訓が学べることを理解しています。

これを知ることは、あなたが自身のソフトスキルを発展することを可能にするでしょう。

Part4

近い将来、多くの仕事で人間が人工知能(AI)に取って代わられると予想されています。

効果的なリーダーシップスキルは、絶え間なく変化する社会を乗り切るのに役立ちます。

作業タスクは単純でしばしば反復的なものがありますが、一方でより複雑なものもあります。

前者はAIによってこなせますが、後者はそうではありません。

たとえば医療分野では、病気の診断において、人間の医師よりもAIの方が優れているかもしれません。

しかし人間的な温かみと同情で、患者とその家族をケアできるのは医師だけです。

効果的な人間関係を築くためには、他者の感情を読み取ることが不可欠です。

明確な意思決定をするためには、状況・前後関係を理解することも非常に重要です。

どちらも人間のリーダーシップ(指導力)の基本原則であり、簡単にAIに置き換えることはできません。

将来AIが発展しても、リーダーは依然として困難な決断をしなければならないでしょう。

もしあなたがその立場にいたら、あなたのソフトスキルをどのように使いますか？

【Blue Marble 2】

Lesson2 伝統家屋の多様性

Part1

伝統的な家屋は、世界中でどうしてこんなに違うのでしょうか？

それは、人々がその自然環境に適した地域の資源を利用しているからです。

伝統的な家屋は、それぞれの国で快適な暮らしを提供してくれます。

日本の家屋は、利用可能な森林資源が豊富なので、木材で作られています。

木材は、いくつかの理由で、日本で最も人気ある建築材料になっています。

第一に、それは日本の湿気の多い気候に適しています。

木材は家の中の湿気をたくさん吸収します。

第二に、そのような家屋は耐震性に優れています。

木材はしなり、揺れの衝撃を吸収することができます。

日本では地震が頻繁に発生するので、伝統的な家屋は木の柱や梁を有効に活用して、耐震性を高めています。

実際、日本人は家をより快適にするために、多くの賢明なやり方で木材の利用法を学びました。

Part2

ギリシャなどの地中海諸国では、白壁の家々が立ち並ぶ美しい街並みをよく見かけます。

これらの壁は、石灰岩に由来する漆喰で覆われています。

この地には古くからこの白い石灰岩が豊富にありました。

これらの家は美しいだけでなく、非常に実用的でもあります。

実際、これらの白壁の家には多くの利点があります。

第一に、白壁は強い日差しを反射します。

この地域では、夏の気温が 40°C を超えることもあります。

したがって、これらの白壁は、室内の温度を涼しく保つのに役立ちます。

第二に、漆喰は水をはじき、さらに消毒までします。

この地域には淡水が不足しているため、雨水は常に重要な資源となってきました。

これらの家の屋根に降る雨水は、日常の利用のために集めることができます。

白壁は街を美しく見せるだけでなく、機能的な役割も果たします。

【Blue Marble 2】

Part3

モンゴルの遊牧民は季節ごとに移動します。

これは、馬、ラクダ、羊などの家畜に新しい牧草地を見つけるためです。

彼らの家であるゲルには、モンゴルの多様な気候と遊牧民の移動する生活様式に合わせて、いくつかの独特な特徴があります。

モンゴルの気温は、年間を通して、-30℃から 30℃まで大きく変わります。

ゲルにはストーブと煙突のほかに、トゥノと呼ばれる特殊な円形の天窓があります。

必要に応じてトゥノを開閉することで、ゲル内を快適な温度に保つことが可能です。

さらに、ゲルは輸送するのに便利です。

その仕事は集団が移動する時、家畜によって運ばれます。

伝統的に、ゲルは木、動物の皮、羊毛などの天然素材で作られています。

そのため、軽量で設置や撤去が簡単です。

このようにしてモンゴルの遊牧民は、ある場所から別の場所へ簡単に移動できるのです。

Part4

世界中の人々が、快適に暮らすために様々な解決策を見つけようとしてきました。

そうするために、入手可能な地元の素材を、賢く独創的な方法で利用してきました。

その結果、伝統的な家屋は世界中で多様な様式を提供しています。

それとは対照的に、新築の住宅には現代的な生活に便利なユーティリティが備わっています。

これらの家は、世界中でますます似通ってきています。

近い将来、伝統的な家屋は消滅するだろうと言う人もいます。

しかし、今では人々が、伝統的な建物の利点を認めています。

世界中の多くの地方自治体が、国内外の観光客に伝統的な家屋を宣伝しています。

さらに、地方自治体や住民が観光目的でそれらを改修しています。

これらの家屋の中には文化的な展示品になっているものもあれば、世界遺産に登録されているものまであります。

このように、伝統的な家屋を保存することは、地域経済に利益をもたらすだけでなく、地域文化を向上させることにもなります。

【Blue Marble 2】

Lesson3 「分身ロボット」で社会を良くする

Part1

「分身(アバター)ロボットがあれば、私のようにベッドに閉じこめられている(=寝たきりの)人も、様々な場所にいる人たちと交流できます。」

「社会とつながることで、人生に意味を見出せることに私は気づきました。」

ある男性の声が、ロボットを通じて、講堂の大観衆に届けられています。

声は番田雄太さんのものですが、実は今彼は病院のベッドの中にいます。

みんなが耳を傾けているロボットは、彼の分身(アバター)です。

近頃では、すべてのロボットに人工知能(AI)が搭載されていると考えられているかもしれませんが。

AI ロボットは家事をこなし、人間とコミュニケーションを取ることさえできます。

しかし、アバターロボットにはAI が搭載されていません。

カメラ、スピーカー、マイクが内蔵されているだけです。

オペレーターがスマホやパソコンで遠隔操作します。

他の場所にいる人と自由に会話したり、ロボットのジェスチャーを使って、感情を表現することさえできます。

ロボットの周りにはいる人は、まるでオペレーターが実際そこにいるかのように感じます。

Part2

分身ロボットは、吉藤健太郎氏によって開発されました。

彼は10代前半の頃、学校にきちんと通うことができなかったで、しばしば強い孤独を感じました。

その後、高専に入学して、孤独な人々を助ける AI の開発に情熱を注ぐようになりました。しかし、彼はその結果に決して満足しませんでした。

彼は、AI ではなく家族や教師たちが、自分を孤独から救ってくれたことについて気づきました。

「現実の人々と触れ合ったおかげで、私は孤独な世界から抜け出せたのかもしれない。」

「AI では孤独な人々を助けられないかもしれない。」

大学で彼は、人々を結びつける新たな方法を生み出しました。

まず初めに彼はロボットを購入して、その働き方を理解するために分解しました。

オンライン(ネット)で調査したり、ロボットの専門家に相談したりして、分身ロボットの構想(コンセプト)を思いつきました。

ロボットを人間のように動かすために、彼はパントマイムと浄瑠璃を学びました。

1年間の試行錯誤の末、分身ロボットの原型が誕生しました。

【Blue Marble 2】

Part3

アバターロボットは様々な分野で活用されています。

社会福祉の分野では、障害者の社会進出を支援しています。

番田の場合、4歳のときに交通事故に遭いました。

その結果彼は歩くことができなくなり、ベッドから離れることさえできませんでした。

しかし、吉藤との出会いが、番田の人生を一変させました。

吉藤は番田にアバターロボットを使ってみないかと誘いました。

番田は、障害のある人の立場として、それを使用した意見を返しました。

また彼は、ロボットを通してベッドから会議に参加し、吉藤のアシスタントとして働き始めました。

番田は言いました、

「社会に必要とされているように感じて、私は嬉しく思います。」

「分身ロボットがあれば、私はどこにでも行けるし、何でもできます。」

教育の分野でも同様に、分身ロボットは大きな可能性を秘めています。

ロボットは教室の机の上に置くことができます。

分身ロボットがあれば、病院にいる生徒でも授業に参加できます。

さらに休み時間や放課後には、クラスメートとおしゃべりを楽しむことができます。

Part4

吉藤は、分身ロボットがスタッフを務めるカフェをオープンさせました。

このカフェで働くロボットは、彼の他のロボットよりも大きなサイズです。

これは、移動して客に給仕する(飲食物を出す)必要があるためです。

身体的または精神的な問題のために外出が困難な人が、そこでリモートで働くことができます。

彼らは分身ロボットを通じて、客に挨拶したり、注文をとったり、食べ物や飲み物を提供したりできます。

このカフェは、社会に直接参加することが困難な人々に雇用の機会を提供しています。

吉藤はその経験から、分身ロボットが孤立という社会問題に対処できることを知っています。

それら(ロボット)は公の場でも職場でも「あなた(自身)」であることが可能です。

ですから、あなたがたとえ家から出られなくても、人と出会い、世界を広げ、自分の人生を楽しむことができます。

吉藤は分身ロボットによって、将来ますます多くの人が交流できるようになることを望んでいます。

(allow 人 to 動詞 = let 人 動詞原型 = 人が～するのを許す)

【Blue Marble 2】

Lesson4 食品廃棄への取り組み

Part1

ヒロトはクラスでプレゼンテーションをしています。

ヒロト：2016年に日本は、約640万トンの（まだ食べられる）食品を廃棄しました。

これはすべての日本人が、毎日お茶碗一杯のご飯を捨てるのと同じ量です。

これがなぜ悪いことなのかを説明します。

まず最初に、食品廃棄は環境に悪いです。

廃棄された食品がゴミとして燃やされると、大量の二酸化炭素が排出されます。

さらにその灰には有毒物質が含まれており、それが土壌を汚染します。

次に、考えるべき倫理的な問題があります。

スライド1をご覧ください。

これは、国連が途上国に提供する食料のほぼ2倍の量を、日本が廃棄していることを示しています。

今日の私たちの世界に関する、この衝撃的な事実には耳を傾けてください。

それは、9人に1人が飢餓に苦しんでいるということです。

世界がこの貧困状態で、私たちがこれほど多くの食料を無駄にするのは、道徳的に間違っています。

Part2

ヒロト：これほど廃棄が多いのはなぜでしょうか？

（＝何がこれほど多くの廃棄を引き起こすのでしょうか？）

スライド2は日本における企業による食品廃棄と、家庭での食品廃棄の量を示しています。

2016年の企業による食品廃棄は約350万トンで、廃棄される食品全体の約55%に相当します。

レストランやスーパーマーケットに届く前に、150万トン以上が廃棄されていました。

その主な理由は、規格外のサイズまたは形状だったからです。

それに加えて、売れ残った食品も大量に捨てられています。

例えば、クリスマスケーキや恵方巻などの特別な日のための食品は大量に廃棄されることがよくあります。

実際、ソーシャルメディア(SNS)で、大量の食品が廃棄されている画像を見て、多くの人がショックを受けました。

一方、家庭での食品廃棄は約290万トンで、全体の約45%を占めています。

家庭では、食べ残しや賞味期限切れの食品が、大量に捨てられています。

正直に言うと、私の家族もこの罪を犯しています。

（＝私の家でも身に覚えがあります。）

私は、最近まで食品廃棄について、全く考えていなかったことを恥ずかしく思っています。

【Blue Marble 2】

Part3

ヒロト：2019年、新しい法律が導入されました。

（その法律は）政府、産業界、消費者が協力して、食品廃棄を削減することを宣言しました。

フードバンクは、この問題にうまく対処する方法を示しています。

これらの組織は、食料を集めて貧しい人々に分配しています。

残念なことに、包装が少し破損していたり、消費期限が近づいているというだけの理由で、多くの食品が廃棄されています。

そのような食品を捨てるのではなく、本当に必要とする人たちに届けることができます。

茨城県の、ある教会を例にとってみましょう。

以前はホームレスの人たちに、月に約2kgの食料しか提供できませんでした。

地元のフードバンクと協力することで、教会は今では月に約6kgを配布できるようになりました。

フードバンクは、食品廃棄の問題を解決するために、前向きな一歩を踏み出しました。

しかし、日々の生活の中で廃棄を減らすために何ができるかについて、私たち一人ひとりもまた考えなければなりません。

Part4

ヒロトのクラスメートがヒロトのプレゼンテーションについて話し合っています。

グリーン先生：ヒロトさん、すばらしいプレゼンテーションをありがとうございました。

それで、私たちは消費者として、食品廃棄を減らすために何ができるのでしょうか？

サキ：言うまでもなく、本当に必要なものだけを買うべきです。

私の家ではアプリを使って、冷蔵庫に食料がどれだけあるかをチェックしているので、買いすぎることはありません。

ユイ：私は、レストランで時々完食できないことがあります。

そこで、「ドギーバッグ」を試してみたいと思います。

それは、食べ残しを持ち帰るための容器です。

最近まで、日本ではドギーバッグを提供するレストランがほとんどなかったようです。

しかし今日、客が食べ残しを持ち帰りできるレストランがますます増えています。

（=ますます多くのレストランが、お客が食べ残しを持ち帰るのを許している。）

ケン：「消費期限」表示を「賞味期限」表示と混同している人がいますが、それらは全く別の物です。

病気にならないために、消費期限を過ぎた食品は食べてはいけません。

しかし、賞味期限が過ぎた食品は、たとえ完全に新鮮でなくとも、まだ食べることができます。

グリーン先生：ありがとう、みなさん。なんと興味深く役に立つアイデアなのでしょう！

【Blue Marble 2】

Lesson5 かけがえのないパートナーとしての動物たち

Part1

古来より人間は猫や犬などの動物を飼ってきました。

人々はこれらの動物から多くの利益を得ました。

猫はネズミ捕りに役立ち、その事は人間の食料を守り、ひいては伝染病の蔓延を防ぎました。

犬は人間とその財産を守るだけでなく、狩りの手伝いもしました。

このように動物は人間にとって、ずっとかけがえのないパートナーでした。

今日、人々は犬や猫だけでなく、魚や鳥、爬虫類など、様々な動物と暮らしています。

一部の人々にとって、それは親友や家族の一員のようなものです。

ある研究によると、ペットと一緒に暮らすことで、ストレスが軽減される可能性があります。私たちが動物を抱いたり撫でたりしていると、私たちの脳は「幸せ」ホルモンとしても知られる、オキシトシンを放出します。

それは私たちの心を落ち着かせ、血圧を下げることができます。

別の研究では、ペットの飼い主は心臓発作のリスクが低いことが示されています。

Part2

動物は、特に身体的または精神的問題を抱えている人々をサポートする上で、様々な役割を果たすことができます。

体の不自由な人を補助するように、訓練された介助動物がいます。

他にも、感情支援動物(ESA)と呼ばれる動物は、精神障害のある人を慰めて元気づけます。

これらの人々はストレスや不安に圧倒されて、突然パニック発作を起こすことがあります。

しかし ESA と一緒に暮らすことで、そのようなストレスを和らげることができたり、医学的な治療の代わりになることもできます。

一部の国では、飼い主が医療の専門家によって発行された書類を取得すれば、オウムやハムスターなどの動物でも ESA にすることができます。

一部の ESA は、介助動物と同様に、飼い主と一緒に電車、バス、または飛行機に乗ることができます。

これは飼い主が自由に移動できて、公共の場所でより安全に感じられることを意味します。

だから、ESA との交流は精神的な問題を抱えた人々に、世界を広げるより多くの機会を与えてくれます。

このように、ESA は社会をより包括的（＝全員参加型の社会）にしてくれます。

【Blue Marble 2】

Part3

一部の国では、動物介在療法によって、人間の生活の質(QOL)が大幅に向上しています。

介護施設では、日々の生活にはあまり変化がありません。

そのため十分な刺激が得られずに、気分が落ち込んだり退屈したりする居住者がいます。

しかし動物を抱きかかえたり、撫でたりすると、住人はしばしば元気を出して笑顔になります。

この相互作用は、彼らの生活に快適さと喜びを加えることができます。

これらの人々の多くが、毛むくじゃらの友達の、次の訪問を楽しみにしています。

病院やその他の団体でも動物介在療法が使われています。

たとえば小児病院では動物たちが若い患者をサポートして、治療の間は子供たちを励まします。

乗馬やイルカとの泳ぐなどの、特別プログラムを提供している団体もあります。

これらの活動は、発達障害や神経障害のある子供たちを対象としています。

動物との触れ合いは、子供の感覚、運動の能力、そしてコミュニケーション能力を向上させることができます。

幅広い医療分野において、動物は重要な役割を果たすことができます。

動物は病気を直接治すことはできませんが、確実に人間の幸福を高めることができます。

Part4

動物は医療以外でも、その可能性を発揮します。

彼らは、人生において間違った道を歩んだ人々を社会復帰させることによって、社会に利益をもたらします。

日本には、矯正施設での興味深いプログラムがあります。

年若い犯罪者が、犬の訓練プログラムに参加しています。

最初、少年は犬の態度の悪さに挫折を感じるかもしれません。

しかし協力し合う内に、犯罪者と犬は徐々に絆を深めていきます。

このプログラムは、若い犯罪者たちがより良い方向に変化するのに役立てることができず。

犬の訓練プログラムはもともとアメリカで始まったもので、非常に効果的でした。

一般的に、アメリカの矯正施設を出所した後、すべての犯罪者の約半数が再び罪を犯します。

しかし、このプログラムを終えた犯罪者は、はるかに優れた結果を残しました。

驚くべきことに、彼らのほとんどが再び犯罪を犯すことなく、より良い人生を見出しました。

動物は社会において多くの重要な役割を果たしています。

彼らは、私たちを守り、慰め、より良い方向に導いてくれるかけがえのないパートナーなのです。

【Blue Marble 2】

Lesson6 使命を持ったアイルランドの歌詠み(詩人)

Part1

日本と世界の間に意義のある架け橋を架ける人々がいます。

その一人が、詩人であり日本の古典文学の翻訳者である、ピーター・マクミランです。

マクミランはアイルランドの田舎で生まれ、母親の文学好きを通して詩に興味を持ちました。

大学では英文学の博士号を取得しました。

1980年代後半、マクミランは大学講師として来日しました。

その頃から彼は和歌に興味を持つようになりました。

マクミランは翻訳する歌集を探すことにしました。

そんな折、恩師である加藤アイリーンから、百人一首の翻訳を勧められました。

マクミランは、日本の和歌にはアイルランドの古典文学との類似性があることに気が付きました。

たとえば、日本文化とケルト文化の両方において、自然の美しさへの感謝が見受けられます。

さらに百人一首の詩的なイメージは、彼自身の個人的な経験を映し出していました。

たとえば次の歌は、このアイルランドの詩人(マクミラン自身)に、自分の故郷を思い出させました。

Part2

マクミランは数年を費やして百人一首を翻訳しました。

有名な日本学者ドナルド・キーン氏の勧めで、マクミランはその翻訳を『百人の歌詠み、それぞれの一首』として出版しました。

後に、この作品に対し国内と海外の両方で賞を受けました。

実のところ、マクミランと百人一首の最初の出会いは、愉快的ものではありませんでした。

ずっと昔、彼がカルタをしていた時、日本文化は難解なので日本人以外には理解できないと言われました。

しかし翻訳本の出版後、彼には嬉しい驚きがありました。

古い歌の意味が、それを英語で読むことで、やっと理解できたと多くの日本人が言ったのです。

このアイルランド人の翻訳者は、百人一首に反映された日本文化の背景を愛しています。

例えば日本の美学は、美は短命であるという考えに基づいています。

桜の花はすぐに散ってしまうからこそ、日本人はより強くその美しさを感じるのです。

これは、美を不滅と結びつける西洋の美学とは異なります。

マクミランの日本文化との出会いは、彼の人生を永遠に変えました。

【Blue Marble 2】

Part3

マクミランは百人一首の翻訳において、様々な困難に直面しました。

日本語の修辭的な特徴を、英語で表現するのは非常に困難です。

例えば掛詞、つまり日本語のシャレは、英語では同様の二重の意味を持たないことがよくあります。

一つの例外は、日本語の「松」です。

歌1の様に「松」は英語の pine と同じく「松の木」と「愛する人を待つ」という2つの意味を持っています。

日本語のシャレの翻訳がどんなに難しくても、この詩人はその全てについて、解決策を見つけることができました。

翻訳する上でもう一つの問題は、文法に関するものです。

和歌には明確な主語がない場合があります。

たとえば歌2で「紅葉踏みわけ」ているのは、鹿なのか詠み主なのか、どちらだと思いますか？

マクミランは、日本文化を英語でより効果的に紹介するため、こちらの下りを意図的に主語なしで翻訳しています。

彼は言います「この和歌には明確な主語は必要ありません。

これは人間と自然は一体であるという、日本人の自然観を反映しているのかもしれませんが。」

Part4

マクミランは百人一首の翻訳の世界を広げました。

彼は、かるたの取り手が歌をもっと理解しやすいように、オリジナルイラストを使って、英語版のかるたを作成しました。

また、日本で英語かるた競技を主催したり、母国アイルランドで全国大会を主催したりもしました。

マクミランは、英語かるたがいつか、オリンピック種目になることを願っています。

彼は百人一首に加えて『伊勢物語』や万葉集精選の翻訳も手がけました。

彼の翻訳は、美しく魅力的な世界への窓を読者にもたらしめます。

またそれらは、異文化理解を促進することにも役立ちます。

2011年の東日本大震災をきっかけに、マクミランは自分の使命を見出しました。

彼は次のように言います

「私は日本文学の輝き(=素晴らしさ)を、英語圏に紹介することに専念しています。

もっとはっきり言えば、これこそ私が日本社会に貢献する方法なのです。」

日本の文化と文学に対する彼の愛は、彼の人生における使命となりました。

マクミランはどんな困難に直面しようとも、日本文化の美しさを英語で紹介しようと努力し続けています。

【Blue Marble 2】

Lesson7 ジェンダーバイアス(性別による先入観・偏見)からの解放

Part1

生物学的な性別とは異なり、男性か女性かというジェンダー(文化的な意味での性別)の概念は、社会的および文化的に形成されます。

例えば、男性はお金を稼ぎ、女性は家事や育児をすべきだと社会的には考えられています。(=社会は決めつけます。)

性別的な役割に関するこうした決めつけは、ジェンダーバイアス(性別による先入観・偏見)につながります。

ジェンダーバイアスの種は、子供の頃から私たちの中に植え付けられます。

親たちは娘に人形や動物のぬいぐるみを与えたり、ピアノやバレエのレッスンを勧めたりする傾向があります。

それとは対照的に、息子たちはおもちゃの車やTVゲームを与えられ、サッカーや野球のチームに入るように勧められることが多いのです。

アイデンティティが完全に確立される前に、私たちの嗜好(好み)は影響を受け始めます。

ジェンダーバイアスはどこにでも存在し、私たちの夢の実現を妨げることがあります。

たとえば、女性がパイロットになることや、男性が客室乗務員になることを思いとどまらせます(=妨げます)。

このようにして、ジェンダーバイアスは、大きな男女間格差につながるのです。

ジェンダー関連の問題に焦点を当てるため、世界ジェンダーギャップレポートが、2006年以来毎年発行されています。

Part2

教育現場では男女間格差の問題がよく見られます。

世界中で女子は男子に比べて、学校教育を受けにくい傾向があります。

ユニセフは、15歳から19歳までの青少年について、衝撃的な詳細を報告しました。

世界中で、こうした男子のうち10%が教育を受けず、雇用されず、(職業)訓練を受けていない(※NEET)のに対し、女子のその割合はほぼ25%になります。

これらの少女たちのほとんどは、家で子供の世話や家事雑用をしなければなりません。

こうした格差は、宗教的信念や文化的伝統に起因している可能性があります。

経済や政治の分野でも男女間格差が見られます。

例えば、日本では女性リーダーの割合が極端に低いです。

2019年の調査によると、日本は女性の政治参加において、146カ国中144位にランクされました。一方、北欧諸国では多くの女性がリーダーとして活躍しています。

男女格差が小さいこれらの国々では、人々が男女平等を求めて懸命に戦いました。

政策改革と教育を通じて、人々の考えが進展してきました。

【Blue Marble 2】

Part3

女性だけでなく男性もまた、ジェンダー(男女間)不平等を経験しています。

日本社会では、男性は家族や私生活よりも仕事を優先することを期待されることが多いのです。

たとえば、男性は性別に基づく社会的規範からの圧力で、育児休暇を取ることが少なくなりがちです。

さらに、ジェンダーバイアスは男性のキャリアの選択肢を狭める可能性があります。

若い男性は「男性にふさわしい仕事を選ぶべきだ」と言われることがあります。

ある事例で、男子学生が保育を学ぶために大学に入学しました。

そこには男性用トイレがほとんどなく、さらに悪いことに男性用更衣室がありませんでした。

彼は、自分が学生として歓迎されていないとはっきりと感じました。

最後に、さまざまなアイデンティティ(性自認)を持つ性的少数者がいます。

私たちは、彼らが日常生活で直面する不平等があることを認識する必要があります。

例えば、制服やトイレ、更衣室に関する問題はまだ解決されていません。

さらに悪いことに、(性的)マイノリティー(=少数派)の中には、拒絶されることを恐れて、自分らしく(=自由に)生きることをためらう人もいます。

Part4

あなたはキルトという伝統衣装を知っていますか？

それはスコットランドに起源を持つ膝丈の「スカート」です。

男性が着用するもので、スコットランド人にとってはごく普通のことです。

しかし、少なくとも男性がスカートを履かない地域で育った人にとっては、馴染みのないものかもしれません。

これは、私たちのファッションや服装に対する見方が、ジェンダーバイアスの影響を受けているためです。

学校の制服におけるジェンダーバイアスに対処していく傾向は高まっています。

日本の一部の学校では、生物学的性別に関係なく、生徒が制服としてパンツかスカートを選択することを許しています。最近では男女兼用の制服を導入する動きもあります。

現在のファッショントレンドでは、男性と女性の区別がなくなりつつあります。

若者たちは自分の好きな色やスタイルを身に着けて、性別を超えてファッションを楽しんでいます。

最近では若い男性の間でメイクすることもポピュラーになってきています。

今日の社会では、性の多様性がますます受け入れられています。

私たちは、すべての人が自分のアイデンティティを表現できる共生社会(すべてを包み込む社会)を構築すべきです。

【Blue Marble 2】

Lesson8 難民のために戦った、小さな巨人

Part1

「小さな巨人」として知られる日本人女性がいました。

彼女の名前は「緒方貞子」です。

彼女は女性、学者、アジア人として、初めての UNHCR（国連難民高等弁務官）の事務所長を務めました。

緒方は世界中の無数の難民のために精力的に働きました。

一般的に難民とは、紛争に巻き込まれたり、宗教的、民族的、政治的理由で迫害された人々であると考えられています。

しかし、国際法では自国を追われた人々と定義されています。

したがって、故郷を追われても自国に留まる人々は難民ではありません。

彼らは国内避難民とみなされます。

実際、これらの人々を保護することは UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の中心的な任務ではありませんでした。

緒方の指導の下、UNHCR の目標は、明確かつ一貫していました。

それは、難民であろうと国内避難民であろうと、苦しんでいる人々の命を救うことでした。彼女は高等弁務官としての約 10 年間、難民のための人道的な取り組みに大きく貢献しました。

Part2

1991 年、緒方は高等弁務官に就任しました。

当時、湾岸戦争が終わったばかりで、イラクではクルド人がまさに迫害されていました。

数日のうちに、そのうちの約 180 万人が近隣国との国境に向かいました。

緒方はただちにスイスのジュネーブから現地へ飛びました。

この危機に応じて、イランは約 130 万人のクルド人難民を受け入れました。

しかし、残った人々はトルコに向かったものの、国境を越えることができませんでした。

彼らは正式な難民ではなかったため、UNHCR による保護の対象になりませんでした。

そのため、緒方は大きなジレンマに直面しました。

人道主義のリーダーである緒方は、革命的な決断を下しました。

彼女は「難民であろうとなかろうと、UNHCR はこれらの苦しんでいる人々を保護すべきである」と明言しました。

彼女は米国大統領と多国籍軍（連合軍）に連絡し、クルド人を保護するよう要請しました。

その結果、イラク国内に彼らのための安全な避難場所が設立されました。

この経験を経て、緒方は「人命第一」をモットーに、数々の国際危機に立ち向かいました。

【Blue Marble 2】

Part3

緒方は首尾一貫して自分の目で状況を確認するために、常に問題発生現場の最前線に足を運びました。

コソボ紛争の最中、ある少年が彼女にこう尋ねました。

「緒方さん、僕はいつになったら家に帰れるの？」

これらの言葉は彼女に、難民が本当に望んでいることを認識させました。

彼らにとって、難民キャンプとは単なる一時的な場所であり、最終的な目的地ではありません。

難民は他の何よりも故郷に帰りたいと願っています。

平和が戻って来れば、そうすることもできるでしょう。

残念ながら彼らの希望は常には実現するとは限らず、多くの場合2つの選択肢に直面します。

1つは最初に逃げて来た国に定住すること、もう1つはさらに別の国に移住することです。

どちらの選択肢を選んだとしても、依然として彼らは生活を再建する必要があります。

UNHCRは難民キャンプで、食糧や医療に加えて教育の機会も提供しています。

実際のところ、難民全体の約半数が子供です。

彼らが将来のために教育を受けることは非常に重要です。

Part4

緒方は21世紀を共存と相互依存の時代と捉えました。

彼女は、私たちは国境を越えて個人を尊重し、命を守るべきだと信じていました。

あるスピーチの中で彼女は次のように訴えました。

貧しい中でも最も貧しい人々である、家を失った人々を保護するという皆さん自身の約束を尊重してください。

最前線で彼らに寄り添う、人道支援に携わる人々を尊重してください。

そして何よりも、全ての難民を尊重して下さい。

緒方にとって、危機とは乗り越えるべきものでした。

ある親しい同僚がアフリカの国から彼女に電話をかけてきたことがありました。

「私たちは命の危険を冒してでも、難民を守るためにここに留まるべきでしょうか？」と彼は尋ねました。

緒方は「難民を救える可能性が僅かでもあるなら残ったほうがいい」とアドバイスしました。

UNHCRを辞めた後も、彼女はさまざまな形で苦しむ人々の支援に尽力しました。

悲しいことに、彼女は2019年10月に亡くなりました。

この小さな巨人の死は世界中で深く悼まれました。

彼女の言葉と哲学は数え切れないほどの人々の心に残っており、今なお難民保護のために活動する人々を勇気づけています。

【Blue Marble 2】

Lesson9 世界的な温暖化への取り組み

Part1

トモカはジオ・エンジニアリング（地球工学、気候工学）についてのプレゼンテーションをしています。

トモカ：

今日は「ジオ・エンジニアリング」についてお話しします。

これは自然を操作して、地球の気候をコントロールする技術の総称です。

私たちの地球にとって最も深刻な問題は、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの増加です。

実際には、これらのガスのかなりの割合を二酸化炭素(CO₂)が占めています。

世界は長年にわたり、様々な方法で CO₂排出量を削減しようとしてきました。

しかし、あまりうまくいっていないので現在、地球工学に注目が集まっています。

地球工学における最も実用的な取り組みの 1 つが、太陽光を宇宙に反射させる「太陽放射管理 (SRM)」です。

雲、大気、そして地球表面のすべては、地球に届く太陽光エネルギーの約 30%を反射します。

こうしてそれらは、過剰な太陽熱から私たちを守ってくれます。

よって、SRM に適用可能な方法の一つとして、特殊な反射性エアロゾルを高層大気中に放出することがあります。

それらは（自然状態よりも）より多くの太陽光エネルギーを宇宙に反射するでしょう。

SRM を導入すれば、迅速かつ効果的に地球温暖化に対処できる可能性があります。

【Blue Marble 2】

Part2

サムはトモカのプレゼンテーションについて質問します。

サム：

興味深いプレゼンテーションをありがとうございます。

SRM は有望に思えますが、何か欠点はあるのでしょうか。

トモカ：

はい、実は3つのデメリットが考えられます。

最初に、エアロゾルは最終的に空中から降下するため、定期的に放出する必要があるでしょう。

第2に、SRM は深刻な干ばつや暴風雨など、気候に意図せぬ結果を引き起こす可能性があります。

最後に、この方法ではすでに空気中にある CO₂量は減少しません。

サム：

わあ、この話題について本当によく調べたのですね。

すでにある CO₂量を減らす直接的な方法は見つかりましたか？

トモカ：

そうですね、いろいろな方法があります。

1つのアプローチとして、産業技術の利用があります。

スイスではすでにそれが実践されています。

ゴミ処理で得られる再生可能エネルギーを動力源とする装置が、大気中から直接 CO₂を回収します。

回収された二酸化炭素は、温室での野菜栽培に利用されます。

これらの装置には効果がありそうなので、ヨーロッパの他の地域でもさらに多くを建設する計画があります。

近い将来、これらの装置によって、毎年かなりの量の CO₂を吸収できる可能性があります。

【Blue Marble 2】

Part3

エマがトモカに質問します。

エマ：

地球気候を制御するというのは革新的なようですが非現実的です。

将来ジオ・エンジニアリングは、本格的に実現する（実現化できる）と思いますか？

トモカ：

そうですね、実現するでしょう。

ジオ・エンジニアリング（地球工学）に関連する技術研究は、役に立つ可能性があります。惑星を居住可能にする事を目指す、「テラ・フォーミング」と呼ばれる工学的技術があります。

加熱したり冷却したりする技術を開発することで、地球の温度を制御する解決策が見つかるかもしれません。

火星は、最も地球に似た惑星なので、テラ・フォーミングには理想的な環境を備えていると科学者たちは考えています。

そのどちらも他の惑星とは違って、表面が固体で、1日がほぼ24時間です。

しかし火星の平均気温はマイナス43℃なので、この惑星を温暖化させることが大きな課題となるでしょう。

この温暖化は、火星表面に炭を広げ、より多くの太陽光を吸収させることで実現できる可能性があります。

それに加えて、火星の極冠にある、凍った二酸化炭素（ドライアイス）が溶けることでも、温暖化のプロセスを促進する可能性があります。

地球とは異なり、そこでは温室効果ガスの生成が有益なことになるでしょう。

ジオ・エンジニアリング（地球工学）には、簡単に答えを出せない多くの疑問があります。

したがって、テラ・フォーミングの研究は、ジオ・エンジニアリングのさらなる進歩につながる可能性があります。

【Blue Marble 2】

Part4

学生たちがジオ・エンジニアリングについて意見を述べています。

ヒロト：

正直に言うと、私はジオ・エンジニアリングが地球温暖化を止める最善の方法だとは思っていません。

それどころか、それは人々が今すぐ行動を起こすことを思いとどまらせる可能性があります。

問題の根本原因を突き止め、人々の意識を高めることが重要です。

それが地球温暖化に対する本当の解決策となるでしょう。

エマ：

ヒロトの意見には一理あると思います。

またジオ・エンジニアリングは、環境に悪影響を与える可能性もあります。

それでも、温室効果ガスの排出削減に努めながら、地球工学の取り組みも採用してみるのはどうでしょう？

それが、大きな違いを生むだろう(未来を変えるだろう)と私は確信しています。

サム：

それと私の考えでは、ジオ・エンジニアリングには国際協力が必要です。

すべての国がジオ・エンジニアリング研究の結果を共有すべきです。

間違いなく私たちは皆、世界的な気候危機を逆戻り（好転）させたいと考えています。

同じ目標に向かって努力すれば、世界は一つになるでしょう。

トモカ：

貴重なご意見をありがとうございました。

ご存知のように、人間活動によって排出された CO₂は、何世紀にも渡って空気中に残ります。

だから将来の世代のため、地球を健全に保つように、今私たちはさらに真剣な本気の行動をとらねばなりません。

【Blue Marble 2】

Lesson10 幸せ探しのための鍵

Part1

あらゆる年代の世界中の人々は、幸せを追求しています。

何人かの人々はこのゴールを達成し、その他の人々は達成できずにいます。

では、幸せを感じる人々とそうではない人々の違いとは何でしょう。

この違いについて、ある興味深い研究があります。大学生が彼等の幸福レベルについてのアンケートに答え、そして幸福と不幸の2タイプに分けられました。

その後、全ての生徒は、二人一組でワードパズルを完成するように言われました。

それから、彼等は皆、自身のスコアはパートナーより良かったことを知らされました。

そうしたら、次のアンケートでは、両グループの自己評価は上昇しました。

しかし、彼等がパートナーのスコアが自身のもスコアより優れていたと知らされたとき、2タイプの人々の反応は異なっていました。

幸せを感じるタイプの人々は自己評価を変えませんでした。

しかし不幸を感じるタイプの人々は、かなりガッカリして、彼等の自己評価は低下しました。

この研究は、不幸なタイプの人々は、他人の成功や失敗を気にしすぎている事を示唆しています。彼等はすぐに自分に対する自信を失います。

その一方で、幸せを感じるタイプの人々は客観的に結果を認識し、そして自身をありのままに受け入れます。

Part2

その研究によると、あなたの幸福度を増す明らかな方法があります。

人々がお金を遣う事の効果を見てみましょう。

研究は、あなたをより幸せにするに、あなたがいくら稼ぐかではなく、どのようにお金を遣ったかであると示しています。

例えば、旅行やコンサートのような経験を楽しむことは、衣服や電子機器などの形のある品物を手に入れることより大きな幸せに繋がります。

この結論の可能性を持つ説があります。

何人かの研究者は、物質的な満足はすぐに減少すると信じています。

何か新しいものを購入したとき、あなたの幸せは一般的に2~3ヶ月で消滅します。

衣服、バッグ、またはスマホであろうが、人々は常により新しい商品を欲しがります。

なぜならば、それを手に入れることで彼等に幸福感を与えるからです。

その一方で、経験は思い出す度に、あなたに幸せをもたらします。

さらに他人と思い出を共有することで、経験はより一層価値のあるものになります。

コンサートや博物館、スポーツイベント行くような経験もまた、あなたの世界観を広げます。

これらの経験はあなたを幸福にします。

【Blue Marble 2】

Part3

幸福に対する別な研究を見てみましょう。

他者と繋がる喜びは、人間性の根本的な側面だと言われています。

それゆえに、心理学者はあなた自身にお金を遣うか、他者にお金を遣うかについての実験を行いました。

参加者は、A,B,そして C の、3 グループに分けられました。

グループ A は、自分自身にお金を遣うために、5 ドル与えられました。

グループ A の人々は、スナックや飲み物のようなものを買いました。

グループ B は 5 ドル与えられ、グループ C は 20 ドルを、他者に使うために与えられました。

両方のグループは、慈善活動に寄付するか、誰かに贈り物をするか、どちらかのためにお金を遣いました。

お金を遣った後、参加者は彼等の幸福レベルを評価するよう頼まれました。

興味深いことに、グループ B と C は、グループ A より幸福を感じたのです。

しかしながら、グループ B と C の幸福レベルに違いはありませんでした。

この実験から私たちは、他者のために何かを費やすことは、幸福感を上昇させることを学ぶことができます。

言い換えれば、あなた自身に目を向けるよりむしろ、他者に目を向けることが大きな幸福感へと繋がるのです。

Part4

他者と良い人間関係を築くことは、あなたの幸福感を上昇させるための、もう一つの重要な要素です。

研究によると、家族や友人と良い人間関係を持った人々は、より高水準の幸福感を持っています。

そしてまた、良い人間関係は、広範囲での健康効果をもたらします。

それ等は、認知の低下を遅らせ、病気の人々の体調を向上させ、平均的な余命を延ばすことさえあります。

興味深いことに、友人の多様性はその数よりも重要であると報告されています。

多くの友人を持つだけでは、必ずしもあなたを幸福にする事はできません。

異なる性別、年齢、国籍を通して、あなたの人生は豊かになり、あなたの幸福は増します。

何人かの人々は、幸せかそうでないかは、運次第であると信じているかもしれない。

しかしながら、これまで学んできたように、あなたの幸福を増やすための多くの方法があります。

あなたが幸福を形作ろうとすることは重要です。

では、あなた自身がより幸せになるために、何をしたいですか？